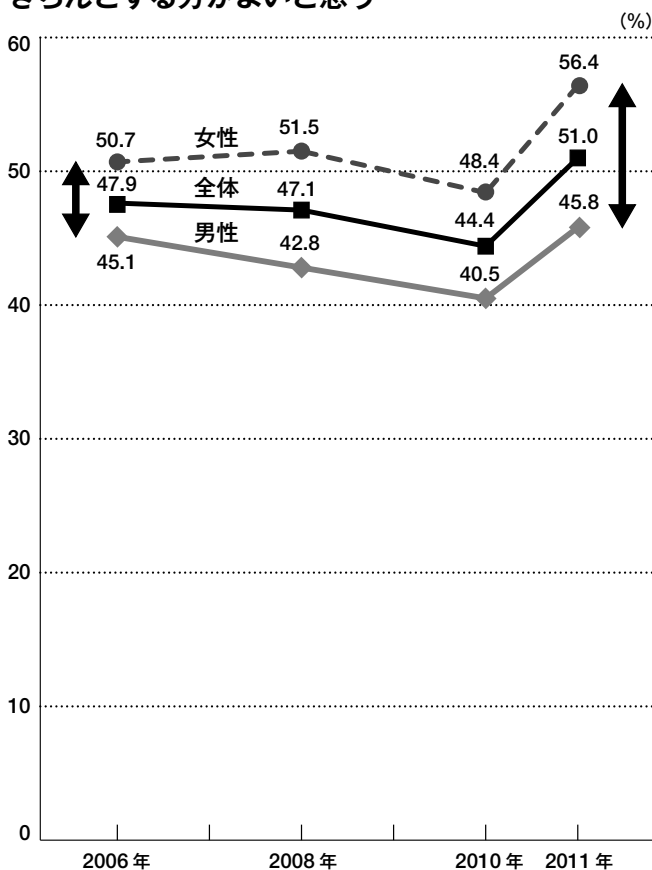


博報堂生活総合研究所 「生活定点」調査より

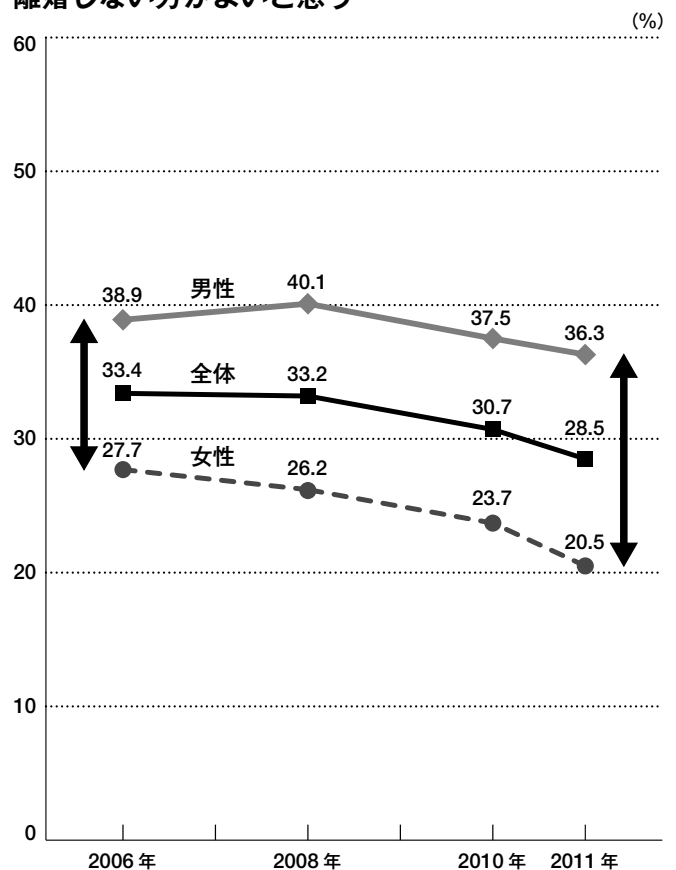
## 個としてつながる夫婦関係へ

博報堂生活総合研究所では、生活者の意識や行動の変化から将来の価値観や欲求の行方を予測する定点観測型のアンケート調査「生活定点」を実施しています。今回はその時系列分析の結果をご報告します。

夫婦でもお金の貸し借りは  
きちんとする方がよいと思う



夫婦はどんなことがあっても  
離婚しない方がよいと思う



### 個としてつながる夫婦、リード役は女性。

- 「夫婦でもお金の貸し借りはきちんとする方がよいと思う」(2006年47.9%→2011年51.0%)が過去最高。2010年までのダウントレンドが2011年に、大きく上昇(6.6ポイント)。特に、男性(2010年40.5%→2011年45.8%で5.3ポイント上昇)よりも女性(2010年48.4%→2011年56.4%で8.0ポイント上昇)でこうした考えを持つ人が増えました。
- 「夫婦はどんなことがあっても離婚しない方がよいと思う」(2006年33.4%→2011年28.5%)は過去最低。ここでも男性(2006年38.9%→2011年36.3%で2.6ポイント下降)よりも女性(2006年27.7%→2011年20.5%で7.2ポイント下降)の下げ幅の大きさが目立ちました。

### 「個+個=夫婦」という、新しいパートナー関係へ。

震災後、様々な不安が溢れる中、家族の交流や、結婚志向が高まっていると言われていますが、それは互いに頼りあう依存関係というよりも、「個」として自律した男女がパートナーを組んで、家族を営んでいくという合理的な関係に向かっているようです。

## 博報堂生活総合研究所 「生活定点」調査

---

- **調査概要** 1992年の調査開始(※)から2年に1度、同じ条件で設定した調査地域・調査対象者に対し、同じ質問を繰り返し投げかける定期観測調査。生活者の意識や行動の変化を時系列で追い、将来の価値観や欲求の行方を予測することを目的としている。東日本大震災のあった今年、その前後の変化を追跡するために、この5月に臨時調査を実施。今回のリリースはその調査結果より。  
※名古屋圏のみ、2006年から調査開始。
- **調査地域** 首都 40 km圏  
阪神 30 km圏  
名古屋 40 km圏
- **調査対象者** 20歳～69歳の男女
- **サンプル数**  
(有効回収)
- |       | 全体     | 男性     | 女性     |
|-------|--------|--------|--------|
| 2006年 | 3,974人 | 2,020人 | 1,954人 |
| 2008年 | 4,072人 | 2,061人 | 2,011人 |
| 2010年 | 4,094人 | 2,074人 | 2,020人 |
| 2011年 | 2,355人 | 1,194人 | 1,161人 |
- **割付** 国勢調査の人口構成比(地区×性別×年齢別)で割付
- **調査方法** 訪問留置法
- **調査時期**
- |                  |
|------------------|
| 2006年5月17日～6月5日  |
| 2008年5月14日～6月2日  |
| 2010年5月11日～5月31日 |
| 2011年5月16日～6月13日 |
- **調査項目** 衣、食、住、健康、学び、働き、家族、恋愛・結婚、交際、贈答、消費・お金、情報、メディア、社会意識、日本の行方、国際化と日本、地球環境など約1500項目。
- **設計・分析** 博報堂生活総合研究所
- **実施・集計** 株式会社 東京サーベイ・リサーチ
- **生活定点URL** <http://seikatsusoken.jp/teiten/>

---

本件に関する お問合せ先	株式会社博報堂 博報堂生活総合研究所	夏山・吉川	TEL.03-6441-6450
	株式会社博報堂 広報室	山野・藤井	TEL.03-6441-6161